

暑く熱い4日間

袴田 交子 (牛久教会)

東北と関わり続けようとの呼びかけに背中を押され、あの暑く熱い4日間は始まりました。東北教区被災者支援ボランティアセンター・エマオを通し、自転車等で片道約14km離れた現地の集合場所・笹屋敷に走り、到着後のグループ分けで各派遣先へ向かいます。私は現地での作業を3日間、エマオで書類を揃える仕事や食事作りを1日させて頂きました。

2日間の畑の回復作業は地面に対して縦方向にスコップを入れて土を少しずつかきとり、石やガラス・プラスチック片・陶器片、松ぼっくり等を除去する作業でした。2日目の休憩時、韓国チームによる韓国語&日本語の「君は愛されるため生まれた」の他、台湾、日本各チームのそれぞれの賛美歌等の歌声が畑にわきあがり、遠くはるかに広がっていきましました。海岸に近いほど津波のために多くの命が失われ、深く心傷つき癒されぬままの人が多くおられ、大地は海水の影響で無残な姿のままの所も多いのです。多くの魂、傷ついた方々のお心に響き、一日も早い回復の願いと祈りを込めて、精一杯歌わせて頂きました。この時、性別も世代も国籍も立場も異なる私たちは、歌うことで心一つにされていました。

4日目は個人様のお宅の庭の除草でした。到着早々のお茶っこで、津波の恐ろしさのお話を伺いました。又、ご一緒した別の方は親しい方を多く亡くされ、今尚大きな苦しみの中におられることを知り、私は耐え切れずに下を向いてしまいました。その日家へ帰ることを告げる私たちに、「もう帰ってしまうの…」と、ぼつんと一言。もっといられたら…と何度も思いました。何度も私たちをお勞り下さった優しいお人柄に沢山の愛を感じました。

そして自転車での移動中にも市民の方から「頑張ってるね、気をつけて」のお声がかかり、震災直後から深く被災現場と関わり続けてこられ、今も献身的に現地の方々とボランティアの間をつないで下さっているエマオのお働きと、それに応えてきた多くのボランティアの自転車隊が信頼され、愛されていることを知りました。他、仮設住宅入居者との触れ合い等、わずか数日の間に、被災地の方々と温かく豊かな交わりをさせて頂きました。

今回、同じ働き手として多くの素晴らしい方々と出会いました。エマオのスタッフの方々、宿泊させて頂いた教会の皆様、同じく被災地である関東教区の方々、単身遠来された方々、韓国や台湾、国内二校の先生と生徒さん等々。東日本大震災がなかったら出会う可能性の少ない方が殆どです。又、お祈りで活動や健康を支えて下さった方々もおられます。皆、被災地の苦しみを思う心でつながっています。被災地の方とボランティア、ボランティアどうし、ボランティアと陰で支える方、それぞれが思いやり、支え合い、励まし合う豊かな関わりの中で生かされ、元気にされているように感じられました。もちろんクリスチャンでない方も同じです。私も弱さを支え補って頂きつつ、悲しみや喜びを分かち合い、素敵な高校生たちと分かち合い、韓国や台湾の方々の、日本の被災地への大きな愛を知って感動し、そんな私自身を喜び、生き生きと4日間を過ごせましたことを深く感謝致します。大きな悲しみの被災地には、主の御名を賛美できる豊かさがあります。一人一人が何らかの形で心一つに関わる時、死や喪失の悲しみの涙を生と回復の喜びへと変えられる希望を主にあって持ち続けつつ、東北の、被災地の方々の良き隣人であり続けたいと願います。

東北教区被災者支援センター・エマオでのボランティア活動に参加して

平野 和雄（竜ヶ崎教会）

1.期間 2012年7月24日(火)～26日(木)

2.場所 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ

3.日別レポート

①7月24日(火)

鹿島教会久保田牧師,山本安生さんが竜ヶ崎教会に迎えに来てくれ、17時30分に竜ヶ崎教会を出発。途中牛久教会で宮島園子さん,合田交子さんに合流し、22時30分頃にエマオへ到着。女性はエマオの隣にある仙台青葉荘教会へ宿泊。男性は近隣の宿舎105号室へ宿泊。

②7月25日(水)

- ・朝6時に起床。7時30分にエマオが開館し、1階の食堂で直ちに朝食(シリアル)をとり、7時45分から2階で行われるオリエンテーションに参加し、エマオでのボランティア活動の心構え等を聞く。その後8時20分から3階で行われる参加者全員によるミーティングに参加し、電動自転車で現地に行くグループと車で行くグループを分け、9時40分までに現地の集合場所(笹屋敷)へ行くことになる。
- ・車3台に分乗し、途中コンビニで昼食を買い、9時50分頃に現地へ到着するも、雨が激しくなり今日のボランティア活動は中止となる。
- ・希望者は荒浜へ行くことになり、立ち入り禁止区域内にある被災したガソリンスタンドを右に見、左に荒浜小学校を見ながら海岸へ向かった。あちこちに黄色のハンカチを連ねた三角テントがあるので何かと思ったら、ここに家があったので同じ所に家を建てたいという意思表示であった。その場所は危険区域であるため家を建てられないとのこと、厳しい現実を見せられた気がした。
- ・エマオに戻り16時30分に午後のミーティングを行い、それぞれのグループが作業内容の報告等を行った。その後、希望者が7～8人の小グループに分かれシェアリングを行った。この日は3グループとなりミッションスクールの高校生3人が自らリーダーをかってでて、シェアリングを行った。
- ・東北教区のボランティアの皆さんが用意をしてくださった夕食を18時にいただき、その後近くの銭湯に行き前日と同じ105号室に宿泊する。

③7月26日(木)

- ・朝は前日と同様に過ごし、車に同乗して現地へ向かった。天気も良いので直ちに訪問先(4か所程)毎に人を振り分け、作業場所へ長靴をはき徒歩で向かった。
- ・私は草取りを行うグループとなり、15人程で横一線となり40分に一回程度の休憩をとりながら草取作業を行った。グループのリーダーは高校生でした。
- ・作業は10時から12時、昼休み1時間をはさみ、13時から15時迄行った。
- ・エマオに戻り、16時30分から夕方のミーティングを行った。昨日帰国した台湾グループ20人に入替り、新たに来日した台湾の20人の自己紹介、及びこのミーティングが最後になる我々を含めた人たちが一人ひとり感想等を述べ、最後に皆で手をつないでお祈りをして17時30分にミーティングを終了した。その後帰路についた。

4.感想等

- ・エマオの若手スタッフ4～5人が、現地の人々を心から思いやり、丁寧にボランティア活動を行っている姿に心を打たれた。
- ・韓国(10人)、台湾(20人)、ミッションスクールの高校生(13人)など海外の方々及び高校生、大学生の熱い思いと行動力を見て、未来に希望を持てる思いになった。
- ・夏休み中のボランティアの手は確保できる見通しであるが、秋以降の田んぼ整備に要する人手確保が課題とのこと。年齢に関係なくボランティア活動に参加できるので、秋には又参加したいと思っています。